

白氏文集 十三 七徳の舞

加藤 淳平

五十篇の新樂府のうち、最初の、唐朝の政治を本格的に論じた詩を紹介致します。白樂天にとって、また多くの唐の官僚にとつて、理想の政治とは、第二代皇帝の太宗李世民の政治でした。この「七徳の舞」は、太宗李世民の政治を歌った詩です。「七徳の舞」とは、唐の宮廷舞樂の一つでした。太宗が、まだ皇子の一人として各地に轉戦したとき、民間で行はれてゐた舞樂曲を採譜し、皇帝に即位の後、宮廷舞樂として、改めて側近の功臣に歌詞を書かせ、宮廷の樂人に洗煉された振り付けさせて、「七徳の舞」と名付けたと云はれます。「七徳」とは、春秋左傳の擧げる君主の徳であり、暴力を禁じ、兵を戡め、國土の大を保ち、功を定め、民を安んじ、衆を和し、財を豊かにするの七つです。太宗の始めた「七徳の舞」は、その後白樂天の時代まで、傳はつて居りました。この詩は、皇帝の側近く仕へてゐた白樂天が、この舞樂を見て、太宗を讚へた詩です。

七徳舞 美撥亂陳王業也 七徳の舞 亂を撥め王業を陳ぬるを美むる也

七徳舞 七徳歌 七徳の舞 七徳の歌

傳自武徳至元和 武徳より傳へて元和に至る

元和小臣白居易 元和の小臣 白居易

觀舞聽歌知樂意 舞を觀 歌を聽きて 樂意を知る

樂終稽首陳其事 樂終り稽首して 其の事を陳ぶ

太宗十八擧義兵 太宗十八にして 義兵を擧げ

白旄黃鉞定兩京 白旄黃鉞 兩京を定む

擒兪戮竇四海清 充を擒にし 竇を戮して 四海清し

二十有四功業成 二十有四にして 功業成る

二十有九卽帝位 二十有九にして 帝位に卽く

三十有五致太平 三十有五にして 太平を致す

功成理定何神速 功成り理定まること 何ぞ神速なる

速在推心置人腹 速きは 心を推して人の腹に置くにあり

(大意)七徳の舞と七徳の歌は、唐の最初の、太宗の父の高祖が定めた年號である武徳年間から傳へて、今の、中唐憲宗皇帝の年號の元和年間(白樂天の三十代から)に至る。元和年間に宮廷に仕へる下級官僚たる自分、白居易は、この舞を見、歌を聞いて、舞樂が創始された意義を知った。舞樂曲が終つたので私は深々と禮をして、そのことを語らう。太宗が唐の國を建てる義兵を擧げたのは十八歳のときである。昔の周の武王に倣ひ、白い旄牛の尾の旗と金色のまさかりを掲げて、長安と洛陽の二つの都を平定した。唐の軍に抵抗する王世充を捕虜にし、竇建徳を殺して、四海のうちの國土を統一する。太宗二十四歳のときには唐の建國を達成し、二十九歳で父の高祖の讓位を受けて帝位に卽き、三十五歳には天下太平を實現した。功業が完成し、天下の政治が定まったのは、何と速かつたことだらうか。速かつたのは、太宗が周圍の人々に心を開き、それらの人々との信賴關係を確立したからである。

(平成二十八年十二月十三日受附)